

福島・尚志高校サッカー一部監督

仲村 浩二さん(41) =郡山市

習志野高から再出発



> 中 <

の日本代表に選ばれた。大学卒業後の1994年、当時福島にあったJFLのチームとプロ契約。チームは財政難で消滅したが、経歴を買われて尚志高校に招かれた。千葉を中心に関東各

福島県郡山市の私立尚志高校サッカー部は、原発事故直後、監督の母校、習志野高校から再び歩み始めた。あの時から3度目の春。入学時に「不安はないか」と一人ずつ意志を確認したかつての新人部員たちが、巣立ちの時を迎えた。送る会であいさつした3年生一人一人が家族や仲間らへの『感謝』を口にした姿に、自らの思いが間違ひなく伝わっていたとの感激で胸がいっぱいになった。

2011年3月27日。千葉県内で生まれ、習志野高校3年時、主将を務めた。福島に残った部員たちをバスを運転して連れてきた。宿泊場所の提供も受け、待ちに待った練習再開の日

の日本代表に選ばれた。大学卒業後の1994年、当時福島にあったJFLのチームとプロ契約。チームは財政難で消滅したが、経歴を買われて尚志高校に招かれた。千葉を中心に関東各

生徒に伝えた「感謝」の心



「全国制覇」の大きな横断幕を掲げ、笑顔で練習を見つめる仲村浩二監督＝福島県郡山市の尚志高校

が訪れた。グラウンドを走り、ボールを追う選手たち。顔はサッカーができる喜びであふれていた。

胸にあったのは、全国大会で対戦するかもしれないライバルを、快く受け入れ

てくれた母校と関係者の心意気への深い感謝。「いろいろな人のおかげで、またサッカーができるんだぞ」。ミーティングで泣きながら選手たちに話し掛けた。

◆ 設けていた。練習前には線量の計測が欠かせない。「サッカーなんてやっていて良いのだろうか」。何度も考えた末、一つの答えを出した。「自分たちにはサッカーしかない。サッカーで福島の希望になろう」。ユニホームやボール、スパイクをたくさん送ってくれた全国の支援に答えるためにも。心は決まり、迷いは消えた。

◆ 夏の全国高校総体はベスト8。年末年始の全国高校選手権大会は福島県勢初の3位に。本場に、福島の希望の星」となり、地元にも明るい話題を提供した。「選手たちは『福島に勇気を』という強い気持ちでプレーしていた」。

◆ 郡山市内は落ち着きを取り戻しつつある。それでも「3・11」が近づく度、強く感じる。「普通にサッカーができることが、どんなに幸せなことか」。選手権大会にはあの「特別な1年」以来、出場できていない。「今年こそは、選手たちとまたあの舞台に立つ」と誓った。